

特集

GXと 医療の 未来

グリーン・
トランスフォーメーション
入門編



企画：石川 賀代（社会医療法人石川記念会HITO病院理事長）

近年、地球温暖化が加速し、世界中で異常気象による自然災害も頻発、その深刻さは増している。その影響は、資源不足、食糧不足、物流機能の分断といった社会、経済にまでも大きな影響を与えている。そのような中、グローバル社会ではグリーン・トランスフォーメーション（GX）への関心が高まっている。

医療業界も気候変動による影響を受けるとともに、医療施設は24時間稼働という特殊な業務形態から、多大なるエネルギーを消費し、炭素排出量などの課題を抱えている。

本特集では、エコロジカル対策を経営上の避けられないコストではなく成長の機会と捉え、GXに取り組むメリットやそこから見える医療の未来、また持続可能な医療の提要についてさまざまな角度から考える。

本特集の論旨が分かる Point 一覧

p.260 脱炭素の取り組みがいよいよ本格的なフェーズに入ってくる。病院は、エネルギー集約的な施設であって、対策は厳しいものになる。しかし、省エネをはじめ、対策技術はあり、昨今のエネルギー価格上昇傾向のもとでは、対策の経済的なリターンも大きく、ペイバックも速くなる。今のうちに対策の道筋をつけていくことが望まれる。
(小林 光)

p.270 医療のGX戦略とは、脱炭素目標の達成に加えて、脱炭素を通じた地域の活性化・地域社会との共生の立場から防災効果の向上・環境問題に起因する病気の根絶・医療従事者の働き方の改善といった点も含めて考えるべきである。これはIoTなどの新たなテクノロジーの活用も含まれ、持続可能な病院経営につながる。
(丹羽 弘善)

p.282 GXは、従来デジタル化やDXを推進してきた組織の経験が生かされる新たな価値創造や事業創出の機会である。医療機関におけるGXの推進は温室効果ガスの削減にとどまらず、より広範に医療サービスを届け、医療の質や患者体験を大きく向上させるパラダイムシフトとなる可能性があり、医療経営の成長戦略として注目される。
(田谷 洋一)

p.288 病院における空調機の集中制御システムの運用事例を通じ、IoT、DX、GXの方向性を考察する。特に、効率的な経営を支えるデータ活用、環境負荷の軽減を実現する技術的アプローチ、人材育成と人的リソースの有効活用に焦点を当てる。
(杉井 康之)

p.294 地球温暖化の解決のためにはGXによる温室効果ガスの削減が必要である。われわれ医療業界は地球温暖化のもたらす健康被害や災害に対する取り組みには熱意がみられるが、その原因である地球温暖化防止対策に対して関心が低く、具体的な取り組みに欠ける。健康を守る者として早急に、率先して地球温暖化阻止に行動を起こすべきである。
(古城 資久・櫻井 勇介)

p.300 スポーツ業界のサステナビリティ実践は医療福祉施設運営にも示唆を与える。環境、社会、経済を考慮した自社独自のサステナブルマネジメントフレームワークの構築が鍵となる。同時に、環境負荷削減に加え、従業員の働きやすさや利用者満足度向上を目指す合理的な投資が未来への成功を支える。
(澤田 陽樹)